

報道関係各位



北本市

kitamoto city

令和8年5月27日
北本市役所 市長公室
シティプロモーション・広報担当
秋葉 048-594-5505
koho@city.kitamoto.lg.jp

全国広報コンクール2部門で入選

北本市が、関係構築や合意形成につなげる
“課題解決型広報”の取組みで全国評価



全国広報コンクールは、地方自治体の優秀な広報作品を表彰するもので、日本広報協会の主催により、1964年から開催されています。

北本市は、令和8年埼玉県広報コンクールで初めて「広報紙」「一枚写真」「組み写真」の3部門で1位に選出。この3作品に加え、広報企画作品が埼玉県代表として進んだ令和8年全国広報コンクールにおいて、「広報紙(市)」と「広報企画」の2部門で見事入選を果たしました。北本市が同コンクールで入選を果たすのは、これで通算9回となります。

いずれも紙面の企画・取材(撮影)・編集・デザインやマンガの作成は、
全て職員が自前で行っています



広報紙(市)部門入選
広報きたもと
令和7年10月号

◀入選を喜ぶ
広報きたもとR7.10月号
に登場した市民の皆さん



広報企画部門入選

マンガが創るまちのミライ
北本市公共施設マネジメント広報企画の軌跡

写真データ提供可

●広報紙(市部)部門 入選

「**広報きたもと令和7年10月号**」

埼玉県広報コンクール
広報紙部門で1位。全国
広報コンクールで他の都
道府県代表作品62点
とともに審査され、15点
が選出される入選作品に。



●広報企画部門 入選

「**マンガが創るまちのミライ 北本市公共施設マネジメント広報企画の軌跡**」

全国の市町村から
応募のあった61点
のうち、9点が選出
される入選作品に。



広報紙部門入選 広報きたもと令和7年10月号

(審査対象:各都道府県代表作品63点 入選:15点)

■保全を楽しむ“里山ライフ”特集が市民活動の広がり

都心へのアクセスが良く、豊かな里山が残る北本市。この自然が守られてきた背景には、長年保全に尽力してきた市民グループの存在があります。しかし、宅地開発等の影響で、里山自体は減少傾向に。令和7年10月号の特集「これが私の里山ライフ」では、こうした活動を単なる「自然保全」ではなく、「**里山的なライフスタイル**」という視点から取材し、その魅力を伝えることで保全の機運を作ることを目指しました。活動を通じて生まれる「**雑木林の親子の居場所**」や「**助け合う畑コミュニティ**」といった新しい価値に注目し、「**雑木林はクッション**」「**お金を介さない世界が見たい**」といった、皆さんの人生観が詰まった言葉を紹介。雑誌のようなレイアウトで、読者が「こんな暮らしがしたい」と思うような紙面に仕上げました。

発行後は、次のような反響がありました。

- ・「北本雑木林の会」さんに活動の問い合わせが増えた
 - ・畑コミュニティ「だいじょうぶだ村」さんに新たな「村人」が増えた。地域からの信頼が増え、社会福祉協議会とコラボしたコーヒーの居場所づくりが始まるなど、コミュニティが広がっている
 - ・遊休農地で自然農の田んぼ作りを行う「荒川わらの会」さんは、地権者さんからの活動への理解や信頼性が向上した
- さらに、紙面に登場したグループ間につながりが生まれ、お互いの活動について語り合う「さとやまトーク」を開催。さらなる市民とのつながりが生まれ、雑木林の地権者である「いとうふあーむ」さんは、市民とともに植樹を始めるなど、新たな里山保全活動も生まれています。



審査員講評(一部抜粋)

大きな文字のアイキャッチや写真の配置に工夫がほどこされておりすばらしい。楽しく読むことができる。都市部に住む住民は、これほど豊かな里山が残っていたことに驚くだろう。農家が支え、里山ライフを楽しむ様々な団体が活用して里山が保たれていることがよく伝わってくる。

入選を受けて、紙面に登場した皆さんから

広報紙に取り上げられたことで、地域からの信頼や人のつながりができ、問い合わせや参加する人も増えました。



読んだ人に声をかけられてモチベーションがあがり、やってきたことを紙面にまとめあげられて客観視できるようになり、同じ紙面に掲載された他の団体の皆さんともつながりができ、自然が大好きで残したいという想いを共有できました。私たちが受け継いだバトンを、次の世代につなげていきたいと思います。

マンガが創るまちのミライ 北本市公共施設マネジメント広報企画 の軌跡(審査対象:61点 入選:9点)

■公共施設の統廃合について、マンガを使って対話を重ね、ポジティブな期待へ

北本市は、市内公共施設の老朽化が進行し、維持費が増大となることを背景に、**今後40年間で市内公共施設の延べ床面積を50%削減する「公共施設等総合管理計画」**を平成28年に策定しました。

しかし、**計画策定当初の市民認知度はわずか15%**。将来公共施設を使うであろう若い世代の関心が低いことや、全体的な削減には賛成でも、実際に特定の施設を削減する段階で反対の声が生まれることなどを考慮し、「若者」「現に施設を利用している人」をターゲットに、多くの市民の皆さんに読まれている「広報きたもと」に、公共施設マネジメントにかかるマンガを令和2年～令和7年にかけて定期的に掲載しました

親しみやすいキャラクターを用いたマンガは、広報紙に掲載するだけでなく、市民説明会等の資料にも活用し、関係市民の皆さんとの対話を重ね、**公共施設の統廃合への不安が統合施設の新たな活用といった前向きな期待に**変わっていきました。

■固いテーマも、職員手書きのマンガで わかりやすく・親しみやすく伝わるように

公共施設マネジメントの他にも、「人口減少」「消滅可能性都市」や、「総合振興計画」など、新たな行政課題や事業をテーマとしたマンガの掲載を続け、ワークショップへの参加につながるなど、マンガを用いた広報の取り組みは、継続中。**広報きたもと**と**令和8年6月号の総合振興計画特集でも登場します！**

審査員講評(一部抜粋)

公共施設マネジメント計画の市民の認知度が低いという課題に対して、職員作成のマンガを活用して、親しみやすく分かりやすく説明を行うという企画である。難しいテーマの場合、特に若い世代に対して有効だ。広報紙を「お知らせ」する媒体にとどめず、「課題解決」のためのツールとして位置づけていることは画期的であり、興味深い重要な取り組みだ。

アンケートデータを読む際に表面的な解釈にとどめず、「自分ごと」として捉えた上での回答かについて深掘りすることで、何が真の課題なのかを明らかにしている。市民との対話を重ねて合意形成(「総論賛成・各論反対」の壁を突破)した点が素晴らしい。これまでのシティプロモーションで培ってきた市民との信頼関係が功を奏したのではなかろうか。

マンガが創る まちのミライ

北本市公共施設マネジメント広報企画の軌跡

1 企画の背景

■計画を進めていくうえでの課題

・計画の認知度

15%

・若い世代(将来使うであろう世代)からの回答が少ない

→ 関心が低い

※北本市の公共施設に関する市民アンケート(2018年)

「計画の認知度は15%
知っていた人
なんとなく知っていた人
84.1% (未知)
が知らないという状況！」



10代の回答率は8.3%
こんなに少ないんだ...

■第1回マンガ特集

「公共施設の今とミライ」

令和2年6月号(表紙含め全8P)

・「今後40年間で公共施設の延べ床面積を50%削減する」という目標に掲げている北本市公共施設等総合管理計画と、その計画を推進するために策定する公共施設マネジメント実施計画について伝える。初のマンガ特集号。

・老朽化、人口減少、維持管理の限界など、まちの公共施設が抱える課題から、後継・集約化による未来像まで、視座を一歩、巨大ロボアニメをイメージして作成。

・表紙からは「広報きたもと」を全面排除し、手に取ってもらう工夫を。

・動画を同時作成。YouTubeでも公開。



YouTube 公共施設の今とミライ



【ストーリー】

ここは北本市を守る特設部隊とgreen、老朽化により公民館のエアコンが壊れた一軒が入るもそこには予算の壁が...、突然湧き出るアラーム。
街中の施設に響く警報。『財政リスク』が現れたのだ。対峙に苦慮する中、市長は市を守るための公共施設を守るという壮大な計画の実行を指示する。
公共施設の合併(集約)による巨大ロボ『マジンガオン』が出現し、いったんは財政リスクを追い出すことに成功するも40年という計画を確実に進めていくことが必要であり、市民の協力が必要だと訴えかける。

全国広報コンクールでの北本市の受賞歴

【広報紙】

- ・広報きたもと平成28年11月号
「財政状況伝えるマン」 **H29入選**
- ・広報きたもと令和4年9月号「ここがわたしの居るところ」 **R5内閣総理大臣賞**
- ・広報きたもと令和5年10月号
「このまちに暮らす、わたしたち」 **R6入選**
- ・**広報きたもと令和7年10月号**
「これが私の里山ライフ」 R8入選



通算9回の全国入選

(うち2回は最高賞である内閣総理大臣賞)

【広報企画】

- ・広報きたもと平成28年11月号
「財政状況伝えるマン」 **H29入選**
※広報紙部門とW入選
- ・「北本トマトカレー～創られたB級グルメが、自立し、市への愛着・誇りを育む～」 **R2入選**
- ・「&green-3つの意欲を高める北本市シティプロモーション」 **R3入選**
- ・「北本市の暮らしの魅力が自動で拡散！『屋外の仮設マーケット』がシティプロモーションの鍵に！『マーケットの学校』と『&green market』」 **R4内閣総理大臣賞**
- ・「まちへの参加を創る・発信する 北本団地商店街活性化プロジェクト」 **R5入選**
- ・**「マンガが創るまちのミライ 北本市公共施設マネジメント広報企画の軌跡」 R8入選**



担当者コメント



里山を、従来の自治体広報で語られがちな「自然保護」の視点ではなく、「豊かに暮らすライフスタイル」として描いたことが本特集の一番大きな特徴です。実際に、紙面に登場した市民の皆さんに「あなたの暮らしがうらやましい」との反響があったり、広報きたもとアンケートでも里山に興味を持ったとの声がありました。市としても、今年度は里山の再生型観光プロジェクト「里山ラボ」を開始するなど、里山を過去の遺産ではなく、これからの暮らしを豊かにする地域資源として、保全に取り組んでいきます。

本企画は、今後40年間で公共施設の延床面積を50%削減するという公共施設マネジメント計画の「認知度15%」という課題に対し、職員が企画、作画した広報マンガを活用し挑んだ軌跡です。固いイメージの計画を親しみやすいストーリーにし、市民の「総論賛成・各論反対」の壁を突破。市全体計画から個別計画策定及び新施設の建設までの5年間を通したマンガ広報により、市民との対話を重ね、自分事化を図ってきました。

「え！部長がマンガ描くんですか！？」「マンガ見ましたよ！続きも気になります！」
そう言った声もお聞きするようになって本当に続けてよかったと感じています。
今後もチナツさんや元気くんをはじめとするキャラの活躍を期待していただきます。

